

# 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

討議年月日:令和 6年 3月 1日

公表:令和6年3月13日

事業所名 chameleon

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	11	2	面積的なものは満たしているが、運動する際には体育館や公園へ行き十分に動けるようにしている。	
	2	職員の配置数は適切である	13	0	多めに配置するようにしている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	11	2		できる範囲で手すりの設置などはしているものの、身体的に負担になりそうな他児には慎重に介助をしていく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	10	3		広く参画は出来ていないかもしれない。日常のコミュニケーションをより深く取って行くようにする。 バラつきがあるため、職員間で意思共有を行っていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	13	0	事業所で改善できる点に対応している。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	10	3		公表はしているものの、職員全員への周知はできていなかったため知らせしていく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	8		外部評価も検討していく
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	13	0	疑問に思ったことを日頃より題材とし、研修を行っている。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	13	0	できるだけ客観的な評価となるよう、職員間の評価も共有するようにしている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	12	1		標準化されたものは使用できていない。評価道具はある為、使用を検討していく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	13	0	気になることがあれば日頃から都度、情報共有し検討するようにしている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	13	0	固定の可否をそれぞれの児童に合わせている	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	12	1	利用者が利用時間やメンバーによってグループ分けし、計画を立てている。	パートの人にも普段の活動計画等周知していく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	13	0	こどもたちのコンディションをみながら、臨機応変に対応している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	12	1		打ち合わせという形はとっていないが、前日までの様子で気になる点や配慮点があれば共有するようにしている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	13	0		打ち合わせという形はとっていないが、気になる点や配慮点があれば共有するようにしている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	13	0	保護者からお聞きしたこと、利用者が発信していたこと・出来事などいつもわかる記録にしている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	13	0	日頃の様子を保護者と共有しながら、見直しの必要性の判断はできていると思う。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	12	1		パート職員にも周知していく。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	13	0	児童発達支援管理責任者が参画	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	13	0	学校と必要に応じて話をする場を設けている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	4	9		対象児がない
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	8	5		できている児童とできていない児童がある。今後、積極的に情報共有を進めていく
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4	8		今の所対象児がない 障害福祉サービス事業所へ移行した児童はまだいない
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	7		市の会議等には参加しているが、研修は出来ていない為、検討していく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	5	8	地域の公園等で一緒に遊ぶ事がある	公園等で誘われた際は一緒に遊ぶ場合もあるが、相手によっては受け入れてくれるかわからないこともある為、連携できる場所の検討も行っていく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3	10		参加できるかの確認していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	12	1		いつでも確認できる状態ではあるが、パートの人も積極的に自発的に情報を確認するようにしていく。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	9	4	ペアレントトレーニングという形ではできていないが、日頃から関わり方については個別で話をするようにしている。	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	12	1		説明はしているものの、不十分な面もあるかもしれない。いつでも疑問に思ったことは話ができる関係性をつくっていく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	12	1		保護者から相談等あった際には記録に残している。記録の確認をより密に行うよう心がける。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	10	3	今年度は6月・3月に保護者会を開いた。3月には調理活動もいれ、話しやすい環境づくりに務めた。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	13	0	苦情はほとんどないが、何か検討事項があった場合には迅速に対応している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	12	1	SNSや活動計画など様々な形で保護者が状況を知れるものを発信している。	
	35	個人情報に十分注意している	13	0	確認を行いながら、できるだけミスが無いよう心掛けている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	13	0	相手によってわかりやすい方法を使って提示している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	11		現在できていない。地域との関わりにつなげる方法を模索していきたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	11	2		周知は不十分である為、対応を検討する
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	12	1		訓練は実施している。パートの人にも行った際の報告をするようにする。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	13	0	日頃より関わり方についての研修やコミュニケーションを取るようしている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	13	0		身体拘束が必要な児童がいない。検討していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8	5		保護者の望まれた対応で対応している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	13	0	迅速に記録に残し、その場の状況や要望策を共有するようしている。	